

平群

Heguri

≡議会だより 12月定例会

No.254

平成28年2月1日
発行:奈良県平群町議会

第5回定例会(12月)

議長挨拶	2
議決結果	3
質疑あれこれ	4~6
議会報告会を開催	7
町政を問う! 一般質問	8~13
町の話題・生駒郡議員研修会	14

第43回マーチングバンド全国大会出場 銀賞



心ひとつに ♪



厳しい練習を たくさんの仲間と 乗り越えて あすか野小&平群マイスターズ

より身近な議会

より信頼される議会に



議長 下中 一郎

寒さ厳しい折り、皆様方におかれましては、お元気にお過ごしのこととお慶び申し上げます。

平素は、平群町議会に對しまして、ご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

さて、地方の時代といわれて久しくなりますが、この間、若者世代の都市部への流入が進み、特に近年は、東京一極集中が加速度的に進んでいます。

このような社会状況の中、国全体として人口減少社会に突入し、とりわけ地方では若者の転出・少子化傾向が進み、自治体の活力源である人口をいかに増加させて

いくのか、今直面する最も大きな問題であります。

本町もまさにその通りであり、地方創生といわれている時、全国各地の自治体も生き残りをかけて様々な施策を展開しようとしています。

本町においても、まもなく平群版地方創生の具体策が示されます。

依然として厳しい財政状況が続く本町であります。かつてなかったような新たな試みも、財政上の問題として答えを出せば、何の進捗も前進も望めません。

この難局を乗り越え、課題を

克服するためには、行政・議会・住民がともに知恵を出し、力を合わせて力強く進めることが重要であります。

まずは、我が町の良き・強さを再認識して、自分達の住んでいる町に自信と誇りを持って問題解決に取り組むことです。

そのような思いの中、昨年4月の統一地方選から、まもなく1年になるうとしています。私たち議員は、決意も新たに皆様方の声を真摯に受け止め、町政発展・住民福祉の向上を目指し、日々議会活動を進めているところであります。

より身近な議会、より信頼される議会として、町民の負託に応えるべく、議員は自己の能力を高める不断の研鑽によつて、議員としての資質の向上に努め、町民の代表として、その言動には常に責任を持たなければなりません。

今後共、皆様方とともに課題を共有し、議会改革を推し進めてまいりますので、なお一層のご理解、ご協力をお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。

寒中お見舞い
申し上げます

議長 下中 一郎
副議長 窪 和子
議員 山本 隆史

城内 敏之
井戸 太郎
森田 勝
稲月 敏子
植田 いずみ
山口 昌亮
山田 仁樹
高幣 幸生
馬本 隆夫



第5回定例会 こんなことが決まりました

平成27年第5回定例会は、12月8日から18日まで11日間の日程で開催しました。

初日の8日は、町長から上程された6議案のうち「平群町議会議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部を改正する条例について」は否決、それ以外の議案は可決、議員発議の「平群町税条例の一部を改正する条例について」は、賛成7反対4で可決しました。

一般質問は15日、16日に行われ、11人の議員が質問しました。

最終日は、初日に可決した「平群町税条例の一部を改正する条例について」町長から再議の申し出があり再び審議、賛成7反対5で否決され廃案となりました。

また、議員提出の「複数税率による軽減税率の導入実現を求める意見書（案）」は、賛成多数で可決しました。

議決結果賛否一覧

○賛成 ●反対（議長は、可否同数のとき議案の可否を決定します）

提出区分	議案名	議決結果	山本隆史	城内敏之	井戸太郎	森田勝	稲月敏子	植田いずみ	山口昌亮	山田仁樹	高幣幸生	窪和子	馬本隆夫	下中一郎
町長提出議案	平群町議会議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部を改正する条例について	否決	○	○	●	●	●	●	●	●	○	○	○	議長は再議以外採決に加わりません
	特別職の職員で非常勤のものの報酬、費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について	原案可決	○	○	○	●	●	●	●	●	○	○	○	
	平群町税条例の一部を改正する条例について	原案可決	○	○	○	○	●	●	●	○	○	○	○	
	平群町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平成27年度平群町一般会計補正予算(第4号)について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	固定資産評価審査委員会委員の選任に同意を求めることについて	原案同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平群町税条例の一部を改正する条例について	原案可決	●	●	○	○	○	○	○	○	●	○	●	
議員提出議案	複数税率による軽減税率の導入実現を求める意見書(案)	原案可決	○	○	○	○	●	●	●	○	○	○	○	
再議	平群町税条例の一部を改正する条例について(再議)	否決	●	●	○	○	○	○	○	○	●	○	●	●

再議とは

「再議の申し出」とは、町長による議会の議決に対する拒否権です。

町長と議会は、それぞれが町民から選出されていることから、「二つの代表」と呼ばれています。

議会は審議の過程で、町長原案を修正したり否決したりすることができます。

また、議員提案で条例提案・改正も提出することができ、町長の思いと議会の結論が異なる場合があります。

「再議」とは文字通り、一度議会が議決したことであっても、再び議論をやり直すことを指します。やり直しを求めることができるのは町長なので、町長の拒否権とも呼ばれています。

地方自治法第176条

普通地方公共団体の議会における条例の制定、若しくは改廃又は予算に関する議決について異議があるときは、当該普通地方公共団体の長は、この法律に特別の定めがあるものを除く外、その送付を受けた日から十日以内に理由を示してこれを再議に付することができる。
※議決については、全出席議員の3分の2以上の者の同意がなければならない。

質疑あれこれ

12月議会に上程された議案及び
質疑の主なものを紹介します。

議会議員の議員報酬、 費用弁償及び期末手当に 関する条例の一部改正

報酬等審議会に議会議員の報酬額について諮問、答申を受けて本条例の一部を改正するもので、9月議会に上程され否決になり再度提出されたものです。

反対討論

議会議員の報酬が高いとは思われないし、他の市町村と比べても今の条例上の金額が妥当。財政が厳しかった平成16年度に比べると、緊急やむを得ない状況は過ぎ削減する必要はない。9月議会に否決した条例を全く同じ内容で12月議会に出される町

長の姿勢がおかしい。

2期8年間、報酬減額は一定の理解を示してきた。現在は、赤字財政から脱却し、3億5千万円の黒字になっている。町長が平成19年12月議会で、この危機を乗り切るために固定資産税率アップに踏み切るといふ言葉に責任を持つのなら、取り止めるべき。今回の議員報酬の減額は、固定資産税の超過税率の継続は、職員給与カットの足かせとしが考えられない。

9月議会以降何の説明や歩み寄りもなく、町長のミニコミ紙で反対議員を誹謗中傷し、意見に逆らう者は許さない、圧力に屈しよとおっしゃっているようにしか思えない。固定資産税の超過税率と、職員給与カット交渉をやめると約束するのなら、議員報酬カットにも理解を示したい。そのうえで、文化センター構想も検討していくべき。



賛成討論

今後の財政事情はどうあるべきか、どう対応していくかを考えた場合、やむを得ないと受け止め賛成する。

財政シミュレーションでは、圧迫する大変な状態が目の前に来ている。議員は、給料ではなくあくまでも報酬、些細な金額かもわからないが、将来の町づくりのために報酬審議会の答申を尊重し賛成をする。

採決の結果、挙手少数で否決されました。

特別職の職員で非常勤の ものの報酬、費用弁償に 関する条例の一部改正

平成28年4月から29年3月まで非常勤特別職の報酬額を減じるため、改正をするものです。

主な質疑

質問 今回の改正で総額はいくらで、元に戻せばいくらになるか。

答弁 26年度の決算ベースをもとにすると、本則では892万5千円。月額20%、日額50%

に減額すると677万3千円。今回の改正で月額15%、日額30%を減額すると746万9千円。減額の差は69万6千円増。

質問 今回の条例改正で20%を15%に、50%を30%に減額する理由は。

答弁 職員の給料と非常勤特別職、議員の報酬額も含めて、同じ土俵に乗せるのは困難であるが、議員報酬15%の削減改正に整合性を持たせ、月額給は15%、日額は30%とした。

反対討論

今の財政は、非常に厳しい状況ではない。町を活性化するためには様々な審議会や協議会、委員会でも必要。報酬をいつまでもカットを続けるのは間違っているし、必要性もないので反対する。

賛成討論

財政が右肩上がりになっているシミュレーションは、一度も見たことがない。議員報酬のカットに賛成した以上は、この議案にも賛成する。

採決の結果、挙手多数で原案

のとおり可決されました。

平群町税条例の一部改正

地方税法の改正に伴うもので、主な改正は下記の3項目です。

- ① 地方税納税猶予に係る納付方法、申請手続き、担保不要の条件の条例委任。
- ② 番号法施行に伴い、個人番号や法人番号に係る項目の整備。
- ③ 旧3級品（6銘柄）の製造たばこの特例税率の廃止及び税率改正。

主な質疑

質問 マイナンバー法ができて税関係の申請書類に個人番号を記載しないと受付しないのか。

また、書かなくても罰則はないと聞いているが、その場合、町はどのような対応をするのか。

答弁 個人番号の記載がないため受付を拒否することはない。法律で定められた義務であることを丁寧に説明し、提出をしていただけるように努めている。

質問

どうしても書きたくないという場合、地方公共団体情報システム機構から、番号を取り寄せられるのではないか。

答弁

番号法第14条第2項に基づいて、地方公共団体は地方公共団体システム機構から個人番号を含む本人確認の情報等の提供を受けることができる。

質問

今まで安い値段で提供されていた旧三級品のたばこが、相対な上がり方になる。たばこ税の影響はどのようになるのか。

答弁

平成26年度の販売実績で影響額を試算すると、28・29年度は各23万5千円、30年度は35万3千円、31年度では69万円の増になる。31年度と26年度決算を比較すると、約151万円の増。

反対討論

マイナンバー制度は、プライバシーの漏えい、侵害の危険があり、本人が番号記載を拒否しても、地方公共団体情報システム機構から番号が取得でき、制度を廃止しない限り問題は解決しない法律は、どうしても納得ができないので反対する。

賛成討論

マイナンバー制度については賛成をしているので、この法律を尊重し賛成する。

採決の結果、挙手多数で原案のとおり可決されました。

消防団員等公務災害補償条例の一部改正

被用者年金制度一元化のため厚生年金保険法が一部改正され、非常勤消防団員等の損害補償基準を一部改正するものです。

平成27年度一般会計補正予算(第4号)

補正総額は、75億8109万9千円。歳出では、個人番号制度に伴う会計電算システム改修費、ふるさと納税推進事業の予算、選挙権年齢引下げに伴うシステム改修費、ふれあい交流センターとはなさところも園の太陽光パネル導入測量設計費、障害福祉費で移動支援事業の扶助費の増額、「結婚から出産・育児までの切れ目ない支援」に係る予算措置、保育所運営費国庫負担金償還金、消防団車両購入費、中学校内のトイレ改修費、

中央公園照明設備の改修と、北公園テニスコートの芝張り替え工事の予算措置を行います。

歳入では、地方創生先行型交付金の追加交付、公職選挙法の改正に伴うシステム改修費と少子化対策強化事業費県補助金、再生可能エネルギー導入に伴う県補助金の増額。中央公園照明設備の修繕費に係る諸収入、道路橋梁新設改良事業債、消防施設整備事業債の増額を行います。

主な質疑

質問 切れ目のない子育て支援に関しての事業内容は。

答弁 恋愛・子育て支援宣言キャンペーンの実施、調査、相談窓口の開設、恋愛や出会いの場所設定など。

質問 恋愛・子育て支援事業は、来年度以降も県から補助金が出るのか。

答弁 28年度も継続して補助を受けられる方向で聞いている。

質問 介護・訓練等給付費、移動支援事業等での増額理由は。

答弁 対象者が新規で1名増え、それに伴う経費が発生した。

質問 ふるさと納税推進事業の業務委託内容は。

答弁 地域で取り組まれているイベントや地域の文化の伝承、自然保存などに対して寄付を頂くための新たな制度設計と、ホームページなどを充実していきたい。

質問 システム変更の際の電算委託料に関して、金額の妥当性のチェックは。

答弁 現在使用しているシステム業者と打ち合わせをする中で、一番効率的にかつ安くできるような費用の算出をしている。

質問 雑入その他の4947万円減額に伴い、未確定財源はいくらになるか。

答弁 当初予算では、土地売り払いを計上して、合計約4億1800万円。9月議会で減額し、約1億6400万円。今回の減額で、約1億1400万円になる。

質問 ふれあい交流センターとはなさところも園の太陽光パネルのそれぞれの発電量は。

答弁 両施設ともに太陽光発電が10kW、リチウム蓄電池が15kWh。

質問 中学校のトイレ改良工事は、どのように改修するのか。

答弁 来年度に肢体不自由の生徒が入学するので、1階男子用トイレを身障者対応にする。現在2基ある大便用のトイレを1基にし、広くする。

質問 土木費と消防費の起債による財源変更について、交付税算入はどのくらいか。

答弁 算入率は土木費で20%。消防費で70%。



同意

固定資産評価審査

委員会委員



野上 威志 氏

住所 平群町竜田川

野上威志氏を固定資産評価審査委員会委員に選任することを全会一致で同意しました。

生駒郡選奨式で表彰



井戸 太郎 議員

平成27年度生駒郡選奨式が11月13日(金)安堵町で開催され、井戸議員が一般表彰を授与されました。

議会の動き

議会運営委員会

※第5回定例会の議会運営について

11月26日

※平成27年度議会報告会について

10月6日 / 10月14日

全員協議会

※(仮称)文化センター・図書館建設の取り組みについて

10月29日

※平群町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会の報告について

12月22日

議員提出議案

平群町税条例の一部を改正する条例について

複数税率による軽減税率の導入実現を求める意見書(案)

提出者 山口 昌亮
賛成者 森田 勝

(原案可決)

提出者 窪 和子
賛成者 高幣 幸生

(原案可決)

町税条例の一部を改正する条例の再議否決

(固定資産税の引き下げ)

12月8日上程された、発議第13号平群町税条例の一部を改正する条例が可決されたことに對し、町長から平成20年度より財政の健全化を図るため、固定資産税の超過税率を願ひし、多様化する住民要望に取り組んできた。老朽化した公共施設の統廃合はまだ道半ば、超過税率を廃止すると、町政運営に大きな支障をきたし停滞が生じる。土地区画整理事業の進捗にも大きな影響を及ぼす。一定の成果を見るまでは、超過税率は必要であるという理由で再議請求が出され、最終日に審議をしまし

反対討論

赤字再建団体にならないために、いまの財政状況で固定資産税を元に戻すのは賛成できない。住民の方には、もう少し理解をお願いしたい。区画整理事業や清掃センターの仮置き焼却灰の処理で、3年先には約10億の借金となる。午後7時半までの学童保育、高校1年生までの医療費無料化など今までやってきたことが無になる。

区画整理事業に賛成した一議員として、完成を見るためには保留地を買い取り、町の玄関である駅前に着債や補助メニューを活用して複合施

賛成討論

設を建設し、活性化をさせるべき。今後、清掃センター仮置き焼却灰に係る環境対策は、多額の経費がかかり赤字再建団体に落ちると住民に一番迷惑をかけ、大変なことになる。

国や県からの交付金もあり、剰余金は3億5500万円になる。固定資産税を段階的に引き下げても財政を圧迫することはない。人口減少に歯止めをかけ、住みやすい町にするために賛成。

8年間超過税率したことで、7億9500万円の負担増になった。高齢化が進み、若者世帯が減り人口減につながったと言える。3年かけて元に戻す優しさが必要ではないか。長年住民の皆様には負担をおかけしたので、少しずつでも見直すことが重要で賛成する。

採決の結果、賛成7人、反対5人で否決になり、平群町税条例の一部を改正する条例は廃案になりました。

「再議」可決するには、出席議員3分の2(8人以上)の同意が必要

開かれた議会を目指して

議会報告会を開催



平群町議会では、議会基本条例に基づき、毎年1回議会報告会を開催しています。昨年は11月15日午後2時から、町中央公民館で行いました。

今回は6回目で、日曜日の午後にも関わらず大勢の方にご参加をいただき、ありがとうございます。

開会にあたり下中議長が挨拶を申し上げ、引き続いて、次の2点について報告を行いました。

●平成26年度決算報告

(一般会計 特別会計
水道事業会計)

報告者 決算審査特別委員会

委員長 森 田 勝

●平群町空き家等の適正管理に関する条例について

報告者 総務建設委員会

委員長 山 田 仁 樹

質疑応答の主な内容

質問

26年度の決算で実質収支が1億7000万円の黒字で

あるなら固定資産税の税率を標準税率に戻してもうえないか。

答弁

超過税率については、改めていただきたいところであるが、町長は今しばらくということなので、我々としてもなかなか難しいところである。

質問

議員報酬引き下げに反対した議員の反対理由を聞かせていただきたい。

答弁

カット自身は反対ではないが、引き下げの根拠が無いことや、議員活動に係る経費が報酬の約3割ぐらい必要であり、町会議員の報酬は360万円、そこから税金・国保・国年なども支払えば180万円で、家族を抱えての生活は非常に厳しい。今後、若い世代が出てくるような対策は必要。

答弁

民間企業でも黒字になれば元に戻るのが一般的な要求だと考えている。

また、若い世代の声を町政に反映するためにも子育て世代の議員が必要であり、議員の資質とともにそれに見合う報酬は払うべきだと考えている。

答弁

議員として活動するためには、研修や調査費など必要な経費がかかる。

また、住民からの相談など大変忙しいというのが実感。他の仕事と兼務するのはかなり難しいと感じているので、議員報酬は一定の額が必要であり反対した。

答弁

財政の黒字が続いていること。住民サービスの切り下げや、職員の給与カットなどで、財政再建をすべきでない。固定資産税の税率は、元に戻すべきだと考える。

また、町村議員の報酬が低いことが若い世代が議員として出て来にくい要因としてあると全国議長会でも報告がされている。

近隣町に比べ特段に高い報酬ではないことから反対した。

答弁

8年前は5億近い赤字のため緊急避難的な問題もあり、全会一致で20%カットとなった。

住民の暮らしを守りながら財政も健全化することが当然であることから、固定資産税の引き上げにも反対した。報酬分の仕事をしていると自負を持っている。



答弁

文化センター建設のために固定資産税の超過税率を継続、一般職の給与カットをするため、議員報酬のカットを求めていると考える。

一方、無駄を省くと言いながら、平群小学校の仮設ハウスでは充分精査された経緯が見えなかった。文化センターを建てる余裕があるなら、固定資産税は一旦、元に戻すことを含め反対した。

質問

議員報酬の引き下げに賛成された議員の意見をお聞きたい。

答弁

報酬審議会の答申(15%カット)を尊重させていただいた。また、図書館を併設した(仮称)文化センターを建設したいので、賛成した。

最後に、窪副議長がお礼の挨拶を申し上げ、4時に終了いたしました。

町政を問う! 一般質問一覧

城内 議員	1. 上水道施設の老朽化	森田 議員	1. 町から自治会への委託業務の見直しを 2. 町職員等のストレス対策は 3. 近大との耕作放棄地対策は町にメリットがあるのか
馬本 議員	1. 平群駅前線東側区域の拡幅を 2. 災害時に飲料水の確保を 3. 平群町公共交通空白地域の解消について 4. 来年度予算編成について	山本 議員	1. 高齢者運転免許自主返納支援制度について
窪 議員	1. 「スマイル宣言」で笑顔のあいさつ運動を 2. 緑のサポーター制度の導入を 3. 「へぐり子育て応援アプリ」の導入を 4. 若者Uターン対策で同窓会支援を 5. 国道168号線バイパスの騒音対策について	稲月 議員	1. 平群町の若者を戦場に送らないために 2. コーナン予定地が長期にわたって荒地となつて放置されている状態について 3. 伝統行事の継承について
植田 議員	1. 東山駅にエレベーターの設置を 2. 多子世帯の保育料軽減制度の拡充を	山田 議員	1. 町道川原路線の道路拡幅について 2. 文化センター構想に伴う平群町の人権交流センター及び人権施策と人権教育の考え方について
井戸 議員	1. 将来必要な設備投資等、すべてを含んだ財政シミュレーションを 2. こども園の2歳児における募集定員の増加を 3. 安全の街づくり。LED電灯の増設と防犯カメラの設置を 4. 無駄な会議は、コレだ！報酬審議会	高幣 議員	1. 駅前出張所より文化センタ優先にしませんか 2. 太陽光発電設置工事に対して、一般家庭に対して補助金支給を
		山口 議員	1. 廃棄物の減量と資源化率向上のために 2. 奈良県市町村総合事務組合の運営の透明性の確保を

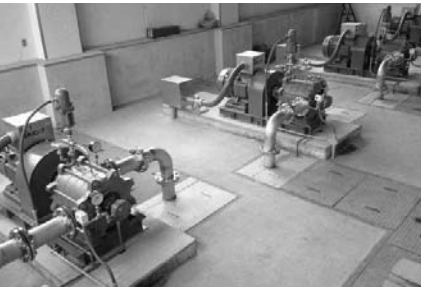
上水道施設の老朽化



城内 敏之

質問

①重要な工事についての準備金の計上は？
②3月に発表された資料によると老朽施設に対する調査結果や修復予定などが詳細に記されているが、この3年間だけについて短期的な見通しを知りたい。
③利益配分や値下げの意見があるが。



答弁

①公営企業会計の資本制度改正に伴い、経理上の利益になったにすぎず、積立金に回す余裕はない。

②受水池、配水池の機械類、水道管の更新工事、加えて、県営水道移行に伴う水道管路の改良工事等もいれてトータル26年度並みになる。計画全般としては、計画通りに進むと考えている。

③26年度純利益912万円を給水件数で割ると二戸当たり月98円程度。

また、26年度決算では、1トン当たりの原価240円61銭で、販売単価は206円49銭、1トン当たり34円12銭の損失が現状。キャッシュフローでは、2千5百万円が減少している。

以上により値下げは、困難。財政計画についてもそのつど修正を加えながら、工事費の財源に起債も活用して持続可能な経営を考えてまいりたい。

来年度予算編成について



馬本 隆夫

質問

本町の平成26年度決算による各区分の財政健康状況は、実質赤字比率では健康、連結実質赤字比率でも健康、実質公債費比率では要治療（昨年度は県内ワースト7位）、将来負担比率は要治療（昨年度は県内ワースト2位）で、負債が高額のため今後の財政運営にとって苦しい状況が長く続く診断結果となりました。



財政健全化法では、4指標の内、前年度決算が1区分でも健全化基準（早期・再生）を超えた場合、住民生活に悪影響を及ぼす健全化計画を策定せねばなりません。

平群町では「0シーリング」（財政カッターになるが無駄な事業が継続する可能性がある）の予算編成を採用されています。

今後は、開発公社解散・こども園建設・小学校改修等の公債費増や、平群駅前区画事業の保留地処分費、（仮称）文化センター建設費、高額な廃棄物処分費等厳しい財政状況が予想されます。財政危機を乗り切るためにも、新年度予算編成を「0ベース」で望むべきと思いますが、いかがお考えですか。

答弁

議員提案の「0ベース」主義を踏まえて新年度予算編成を行います。

「スマイル宣言」で

笑顔のあいさつ運動を



窪 和子

質問

笑顔のあいさつは、心を明るく豊かにしてくれます。

急速な少子高齢化、人口減少、また、子どものいじめや自殺、暴力、虐待等のSOSなど多くの課題が山積している今だからこそ、さわやかな笑顔を心がけることが大切です。笑顔のあいさつは好感を広げ、良き出会いを生み地域のつながりを深めます。



①そこで、平群町をあげて「へべりスマイル宣言」を行い、笑顔のあいさつ運動を取り組むことを宣言してはごうですか。

②役場が「あいさつマニアル」をもとに、率先してあいさつ運動に取り

組み、窓口サービスの向上に努めてはごうですか。

答弁

①あいさつは「コミュニケーション」の始まりであり、互いの心を豊かにし、犯罪抑止はもとより、高齢者や子ども達の見守りにもつながる。貴重なご提案であり、町をあげて広報や各イベント等を通じて笑顔のあいさつ運動を啓発して参りたい。

②接遇マニアルを作成し取り組んでいるが、十分に認識しており、生野区「いくのスマイル宣言」も参考に、役場に来庁される方々をおもてなしの心で迎えられるよう全職員に周知徹底を図る。

東山駅にエレベーターの設置を



高齢者や障害者の方々が自立した社会生活を送れるための移動の利便性及び安全性の確保のため、交通バリアフリー法が制定された。

当初1日5千人以上の利用者があつた駅の段差解消が、現在は3千人以上に対象を拡大。東山駅は、生駒線で階段数が最も多い48段。エスカレーターはあるが、急勾

質問



植田いずみ

配で高齢者や障害者、子どもを連れてのママ達には利用しづらいとの声が多く聞かれている。

また、近大奈良病院の最寄り駅で、来院者も多く利用されることから安全・安心な駅への整備が急がれる。

署名活動（現在1060筆）も始まつており、町も関係機関との連携・協力をしてエレベーター設置が早急に実現できるよう、費用負担も含めご尽力いただきたい。

答弁

利用促進協議会で個別に要求しているが、近鉄からは、利用者の減少など厳しい状況にあると聞いている。

生駒市とも調整しながら近鉄にも改めて要望していきたい。

あくまで、設置自治体は生駒市であることから、出来ることは精一杯していきたい。

すべてを含んだ

財政シミュレーションを



井戸 太郎

質問

この平群町において、近い将来、最低限必要になる設備投資が多くある。

主なものは、ごみ処理清掃センターの建設、役場本庁舎の耐震、中央公民館の耐震、西小学校、南保育園の跡地利用、駅周辺整備事業の負担など。

現在、町が出している財政シミュレーションは、平群駅前文化ホール建設と最低限の維持補修経費のみを計上で、その他の新た



な建設、大規模改修などは計上していない。

天理市提案の広域清掃センター建設に関して協議した際、平群町は不参加に決まつたが、10年以内に清掃センターの方向性を決断することとなった。

答弁

しかし、シミュレーションに入っていない。

また、役場本庁舎も最低でも耐震化が必要。計上せずに政策を決定すれば、平群町が財政破綻しかねない。懸念される現象を全て含んだ財政シミュレーションを出した上で、政策を議論すべきと考えるのがいいか。

財政シミュレーションは、今後の財政見通しの大きな方向性を把握し、施策決定のタイミングを計る上で有効に活用している。想定しうる事項を網羅し、より現実的になるように作成したい。

町から自治会への委託業務の見直しを



森田 勝

質問

町広報紙の配布、回覧板の回覧等、自治会に関わる本来町が担うべき多くの業務を、無償で自治会に委託している。

この結果、地域の連携が図られ、地域コミュニティ形成等、一定の成果を上げてきた。

しかし、住民の高齢化に伴い町や自治会行事に参加できなくなったり、自治会の役員になると体力的に負担が大きいこと



から役員になる事を嫌い、自治会を脱退したい、脱退する事象が出ている。

また、若い共稼ぎ世帯でも同様の問題が発生している。

この事象を放置すると良好だった地域内の連携や地域コミュニティが崩壊する危機に直面することから、町から自治会への委託業務の見直しを検討すべきでは。

なお、お隣の斑鳩町では町広報紙の配布はシルバー人材センターが行っている。

答弁

平成26年の自治会への加入世帯数は6997世帯で、住民基本台帳ベースでの加入率89・4%となっているが、現時点で大字・自治会から委託業務の見直しの意見、要望が出ていないので、今のところ見直しを考えていない。

高齢者運転免許自主

返納支援制度について



山本 隆史

質問

高齢ドライバーの事故ニュースを聞くたびに

「早く車の運転をやめてほしい」と願う、ご家族も多いのではないかと思います。

マイカーのある生活に慣れてしまい、免許を自主返納するのは考え難いことです。

しかし、いつかはその日が訪れるのではないのでしょうか？

有効期限内に運転免許



の取り消し申請を行うと、手数料千円で「運転経歴証明書」を受け取ることが出来ます。これは、公的な証明書で永久的に使用できます。

高齢ドライバーを事故から守るため、奈良県警察や西和警察署、平群町が連携を取り、様々な特

典をつけて返納しやすい環境づくりを進めています。

平群町は急こう配が多い地形ですから、返納後はコミュニティバスの利用をお勧めしたいのですが、運転経歴証明書を提示すれば利用料が無料（減額）になれば、移動手段のサポートになるのでは、と質問致しました。

答弁

運転免許を返納された高齢者の支援対策として、どのような方法が可能か、実施に向けて検討してまいりたいと考えます。

コーナン予定地が 長期に放置されている件



稲月 敏子

質問

①国道168号 椿井
地域は町内では最も交通
量が多い道路沿いで、平
群町の顔とも言えます。
コーナンが出店予定と
聞いてもう数年、広い面
積において雑草が生い茂
り、小山もあるような荒
地になっていますが、こ
の土地はどつなっているの
か。



答弁

②雑草が生い茂り景観
が大変悪くなっているこ
と、害虫の発生や種の飛
散によって、周辺の農地
に被害が及んでいるこ
と、花粉の飛散によって
健康被害を及ぼし、近隣
住民の多くから、また、来
町者からも苦情が寄せら
れています。町としてど
う解決していくお考えか
お尋ねします。

①工事施工業者が決
まていないことが理由で
開発許可に至っていない。
施工者が決まり次第、開
発許可の見込みである。

②予定地の大半が農地
であるため、農業委員会
からも適切な管理を行う
よう依頼している。その
結果、外周部分の草刈が
実施された。

住民生活、環境に影響
するような件については
町としても法的に可能な
範囲で業者指導を行って
いく。

町道川原路線の 道路拡幅について



山田 仁樹

質問

竜田川駅南踏切から椿
井橋交差点間の町道川原
路線の未拡幅部分の道路
拡幅について町は、多方
面への調整等、努力頂い
ている事は十分理解して
います。

26年12月議会では、
進捗状況についての質問
に『地積更生など拡幅に
むけた用地の整理を平成
25年3月に完了。26年
度予備設計業務を発注、
道路幅員などの計画を作
成し27年1月には地元



答弁

ろです。

- ①26年以降の経過は
- ②今後の予定は
- ③28年度予算要求は

説明会を開催したい。一
定の理解が得られた後
に、地権者との交渉も含
め取り組んでいきたい』
との答弁をいただき、い
よいよ本格的に進みだし
たという実感をえたこと

①用地に係る地権者に
予備交渉を行い概ね理解
頂き、27年3月、2回
目の地元説明会を実施。
②地元関係者や警察な
ど関係機関との協議を進
めながら27年度内に詳
細設計業務完了予定。

成果に基づき詳細な年
次計画や事業費の算出な
ど、着工に向けた資料を
作成し早期の事業着手を
目指していきたい。

③国の事業費交付要望
も行っており、用地購入
費等計上していきたい。

駅前出張所より文化センタ 優先にしませんか



高幣 幸生

質問

文化センタ等の構想には大賛成。公共施設の集約化、複合化により駅前の活性化に繋がり、大きな町民の夢である。さらに現中央公民館等の老朽化、危険防止対策にも繋がる。

駅前に文化センタが出来れば、町内の近鉄4駅からの利便性が上がり、平群駅前の開発工事にも大きな役割を果たす。

他自治体では、公民館や図書館に民間資金（通



称PFI手法）を導入しており、このようなPFIの研究もすべきである。

また、駅前は観光の玄関、顔でもあり、開発は人口減少のストップに繋がる。町民の利便性を考えることです。町民の夢である文化センタ構想を含め「まち・ひと・しごと創生総合戦略」について尋ねる。

答弁

文化センタ・図書館構想は今後に向け、議会や住民と十分な議論をするため、基本計画策定の準備を進めている。PFIは、算入企業がなかなか見込めなく、本町に合う手法で進めたい。

総合戦略は検討中で文化センタを平群駅前に設置することで、駅周辺事業との相乗効果になり、平群の中心市街地の活性化に繋がり「へぐり創生」に今後も取り組みたい。

廃棄物の減量と

資源化率向上のために



山口 昌亮

質問

①平成25年10月からの有料化後、家庭の可燃ごみは、昨年度後半期までは減っていたが、今年度前半期は増加するリバウンド状況にあるがどのよう

に分析しているのか。

②廃棄物の総量を減らすとともに、リサイクル率の向上が大事。斑鳩町では、生ごみと木くず・草類の堆肥化を実施して大きな成果をあげている。平群町も実施にむけた具

体的な計画をつくるべき。

③事業系の可燃ごみがこの7年間で6.5%も増加している。斑鳩町では、搬入時事業者の登録制度や有料袋制など、様々な工夫や努力で、この7年



間で半分以下に減らしている。平群町でもこれを参考にした対策を。

答弁

①顕著な原因は見つからないが、増加しないよう、さらに啓発等に努力していきたい。

②収集体制や積み替え等の場所確保などの課題があり、早期には難しいが、実施にむけ検討していきたい。

③各事業者への調査もできていない。今後、事業者へ足を運んで、町の廃棄物対策も説明して、減量に努力してもらえようしていきたい。

生駒郡町村議会議員研修会

「マスコミに出ない政治経済の裏話」 ～いま世界と日本で起きていることを明かす～

講師 政治評論家板垣英憲氏

10月26日(月) いかるがホールにおいて、「マスコミに出ない政治経済の裏話」～いま世界と日本で起きていることを明かす～と題して、政治評論家の板垣英憲氏を迎えて、生駒郡町村議会議長会議員研修が開催されました。

板垣氏は毎日新聞東京本社入社以来、社会部、政治部、経済部を歴任され元福田首相や元大平首相など番記者担当を経て評論家として独立、執筆、講演活動をされています。

講演では、今世界で起きていること、日本で起きていること、また、これからの日本の問題や経済、外交問題などあらゆる分野のマスコミにも出ていない裏話を語っていただきました。



編集後記

2013年、ブエノスアイレスで開かれた国際オリンピック委員会総会における投票により「TOKYO」がライバル都市を破って2020年オリンピック・パラリンピック大会の開催都市に選出された。

歓喜に包まれた国内では、インフレ・盗用疑惑や新国立競技場の計画が白紙になった。「おもてなし」を受ける世界各国は、これらの問題をどう捉えたのか。チェックの甘さが浮き彫りになった典型的なミスである。信用を取り戻すには数倍の労力と時間が必要になる。

町行政をチェックする議会においても、重機の如く強固な地盤を構築し、地滑りを起こさない行政の上に未来を積み上げていくことが、無駄のない最短の道である。

ひとの生

裏があるゆえ

おもてなし

山本 記

町の話 題



平群ミニバスケットボール男子チーム 奈良県大会初優勝!

平群のミニバスケットチームは、小学校1年生から6年生がメンバーで、基本週4回、各小学校体育館で練習しています。

平群女子チームは県下でも強豪で優勝経験はありましたが、男子チームは、今回初めての優勝となりました。

第38回奈良県大会は12月に開催され、奈良県内の小学生チーム29校が出場しました。平群男子チームは、怪我をする選手も多く厳しい試合が続きましたが、得意の高さを武器に勝利を重ね、その頂点に立ちました。怪我の選手をカバーする練習や、逆境でかえってリラックスできたことで、日頃の力を十分に発揮できたのかも知れません。

次は、3月の全国大会に出場することになります。全国大会は、県大会の優勝チームのみが出場できます。全国大会での目標は、ズバリ予選突破だそうです。

小学生のミニバスケットボールは、1試合の中でメンバー交代などで、少なくとも10人が出場するという特別ルールがあります。中学生、一般のバスケットボールは、最低レギュラー5人出場すればいいのですから、最低10人出場のミニバスケットボールは、個々の能力の他に、チームの選手全体の総合力も重要となります。

全国大会での平群チームの活躍に期待しましょう。

レッツゴー平群! ゴーゴー平群!

井戸 記